

平成29年度 京都市立綾部高等学校（本校全日制） 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<ul style="list-style-type: none"> ・学力の向上と進路希望の実現 ・基本的な生活習慣の確立 ・基本的な人権を尊重する態度と豊かな人間性の育成 ・健康及び体力の維持・向上 ・地域社会から信頼される学校づくりの推進 	<p>【本校】 （成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路指導、特に進学面においては、同窓会等の支援により大学生学習コーチ補習支援プログラムを取り入れたことにより、4年制大学受験を希望する生徒の学習意欲を向上させることができ、さらに、特進コース生徒については、9月に2日間強化学習会を実施することにより、クラス全体が卒業まで受験に向けたクラス体制の基礎固めができた。 ○総務企画部が中心となり、京都フロンティア校として「綾部学」の取組や国際交流（中国、台湾、韓国、米国）の取組を実施することにより、地域社会に貢献できる教育活動や国際感覚を養う機会となった。 ○施設設備関係では、LL教室にエアコンを設置し、英語活動をはじめ、様々な学習会等に活用できるようになった。また、渡り廊下にも放課後の学習の質問に答えられるよう机と椅子を設置し、学習環境を充実させることができた。また、美術教室にもエアコンを設置し、快適な環境で授業や部活動に取り組みできるようになり、綾部市との連携によりLINEのスタンプ作成・登録にも貢献することができた。 ○部活動においては、運動部は、カヌー部がカヌースプリントジュニア大会と国民体育大会で優勝するなど日本一となることができた。文化部では、書道部が京都府高等学校総合文化祭書道部門で最優秀賞を受賞し、来年度に宮城県で開催される全国大会に出場できるようになった。 ○PTA・同窓会の協力のもとで進路講演会を実施することができ、キャリア形成に向けた貴重な進路学習となった。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習と部活動の両立に向けて学校全体で組織的に取り組まなければならない事項について、職員会議等で再確認し、教職員全体で取り組めるよう働きかけたが、教育活動アンケートでも学力向上に向けた取組や進路指導面での不十分な点について指摘いただいているので、その点については、学力向上を最重要課題として改善できるよう学校全体で組織的に取り組み、より一層、綾部高校としての特色ある教育活動を展開する必要がある。 ○部活動や校外学習での怪我とインフルエンザによる欠席者が例年より多かったため、次年度以降、健康安全教育の校内体制づくりに反映させていく必要がある。 ○自転車乗車時のマナーや保護者の送迎による自動車の駐停車について、地域の方々に御迷惑をかけていることから、PTAと連携した継続的な取組が必要である。また、生徒の規範意識の向上や通学時の列車乗車マナー向上等、更なるシティズンシップ教育の継続的な取組も必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と「確かな学び」を実現する学習環境づくり ・系統的・組織的な進路指導体制の確立 ・豊かな人権感覚や国際感覚、シティズンシップの育成 ・健康安全教育の推進と部活動の充実 ・地域社会の活性化に貢献できる教育活動

分掌 教科	項目(重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題
1 組織・運営	教職員の連携を強化し、組織的な学校運営に努める	教職員がチームとして共通の目標と各自の役割や責任を自覚し、選択と集中を明確にして業務に当たる。	B	◆分掌間での連携をより強化させ、学校としての共通目標に対して、選択と集中をより明確にするべきであった。 ◆各種会議については、昨年度よりは機能するようになったが、まだ機能が十分に発揮できていない。
		各種会議（特に進路指導会議、生徒指導会議）の機能を強化させる。	C	
2 総務企画部	広報活動の充実	ホームページを見やすくし、更新をスピーディに行う。	A	◆ホームページやお知らせメールの更新回数を増やし、学習・部活動の両立、生き活きとした生徒の写真を載せるなど内容を改善した。 ◆綾高だよりには、在校生の声・写真を多数掲載し、活動的な綾高生の様子を中学生が分かるように改善した。ただし、学校評価アンケートでは、ホームページを見る機会が少ないという結果より、ホームページに目を向けてもらうような施策が必要である。
		「綾高だより」の紙面を充実し、綾部高校生の躍動感あふれる内容にする。	A	
3 教務部	生徒の基礎学力の定着	生徒の学習状況の実態を把握し、生徒たちに合った学習環境を作る。	B	◆教科担当者会議が短くなるように、学年団と工夫した。また、生徒の学習状況が悪い場合、週末課題を課すように教科担当者会議で確認した。
		教科担当者会議を見直し、生徒たちの学び意欲を向上させる。	B	
4 生徒指導部	基本的な生活習慣を確立する	挨拶や入室マナー、正しい言葉遣いを身に付けるように指導する。	B	◆朝の校門立ち番で、生徒に積極的に挨拶や声かけを実施し、コミュニケーションをつくるきっかけとなった。 ◆身だしなみの指導を向上週間や考査中、式後の検査で粘り強く指導した。
		常に身だしなみを整えるように、職員全体で指導を徹底する。	C	
5 進路指導部	希望進路の実現に向けた確かな学力の育成	基礎学力の定着とそれを応用できる学力の育成に向けた学習環境の整備を図る。	B	◆土曜講座や長期休業中の進学特別講習、模擬試験を適宜実施し、授業で学習する内容の定着・応用に活かすことができた。また、府実力テストをはじめ、1、2年生の模擬試験に表れる学力特性を教員の視点で分析し、職員会議や当該教科に示すことができた。
		模試データの分析を充実し、各生徒の学習課題の発見とその解決に向けた取組を推進する。	A	
6 保健部	命と身体を大切に育てる生徒を育てる	健康管理、危機管理についての知識と意識を持たせ、健康で安全な生活を送れるようにする。	B	◆「ノルマガ」の流行時に体調不良でも登校する生徒も多く、感染症に対する危機意識、自己の健康管理能力の向上が課題である。 ◆「カネレック」を有効活用することができ、教員にも生徒理解が深まった。限られた時間の効率的な使い方の工夫が今後の課題である。
		保健だより等を活用し、さまざまな健康課題について考えさせ、生活に活かせるように指導する。	A	
7 第1学年部	学習習慣を確立させ、基礎学力を定着させる	チャイムと同時に授業を開始でき、授業にしっかりと臨ませる指導を徹底する。	C	◆基本的な生活習慣の確立に向け、挨拶や身だしなみなどのマナー指導の徹底に努めたが、学習に向かう姿勢を定着させることがなかなかできないなどの課題を残した。 ◆生徒の情報交換を一層進めることに努め、各教科担任はもとより各関係分掌、各関係機関との連携を密にすることができ、個々の生徒の実態に応じた指導ができた。
		教科担任と連携を密にし、個に応じた指導を行う。	A	

分掌 教科	項目(重点目標)	具体的方策	評価	成果と課題
8 第2学年部	基本的生活習慣の確立	挨拶や身だしなみ、規則を遵守する指導を徹底する。	C	◆身だしなみについて、徹底した指導ができなかった。教員による指導はもちろんだが、生徒たち自身から、規律を守る雰囲気を出せるような取り組みをすることが課題である。 ◆授業中の不正使用は1年次に比べて減ったものの、ベル着については、少し課題が残った。
		ベル着ベル準、スマホの違反使用の撲滅を呼び掛け、教科担当と連携を密にしながら授業を大切にす姿勢の徹底を図る。	B	
9 第3学年部	希望進路を実現させる	進路意識を向上させ、実現に向けた取組を強化する。	B	◆希望進路の実現に向けて、進路指導部と必要な情報を共有するとともに、各種のガイダンスを適切に行い、生徒や保護者とも面談を重ね、個々に応じた指導を行うことができた。また、特別支援生徒の進学後、就職後を見据えたサポートも保健部と連携してできた。課題としては、生徒自身が学力向上についての自覚が薄いことから、基礎学力の定着に新たなアプローチが必要と考える。
		基礎学力の定着を図り、それぞれの進路に応じた力を育成する。	B	
10 事務部	会計財務の適正及び有効な執行と教育の諸条件整備	生徒の学力向上と希望進路実現に向けて、教育環境改善と教育内容の充実により有効な予算執行に努める。	B	◆教育内容の充実に向け、学校経営計画等に基づいた予算執行に努めつつ、施設の老朽化等による突発的な修繕の増加にも、限られた予算の中で優先順位を決め、効率的な予算執行に努めた。府の財政状況もふまえ、今後は、短期的・長期的な計画をたて、本庁担当課と更に連携をとりながら教育環境整備等に取り組む必要がある。
		教育方針及び教育指導に則した予算の計画的・効率的・効果的な執行を行う。	B	
11 国語科	基礎力の上に立った、運用能力、実践力の育成	学力層に応じた学びを大切に、AL、演習等多様な方法を用いて、共に学ぶ授業を展開する。	B	◆普段の授業の中にALやICTを取り入れ、教科会でそれぞれの実践を共有することで、学び合い、指導力を向上させることができた。 ◆小テストで日常的に学習することを促したり、学力に合った課題を与えたりすることで、各学力層の学力を伸ばそうとした。実践力の養成に向けて、家庭学習の習慣の定着、質の向上が、引き続き次年度の課題である。
		適切な小テスト、課題を恒常的に与え、生徒が家庭学習に主体的、継続的に取り組めるよう支援する。	B	
12 地歴公民科	基礎学力の定着をはかり、希望進路の実現に努める	定期的小テストを実施し課題を与えて、家庭学習の定着化を図る。	C	◆各小教科の特徴にあわせて、また各クラスの実情に合致した授業展開ができた。 ◆各教科とも教材開発に力を入れ、生徒の興味関心を引き出すことができた。 ◆基礎学力の定着を図る取組は、不十分なままであった。
		時事問題や地元の身近な題材を取り上げ、生徒が興味関心を示す授業となるよう努める。	A	
13 数学科	学力の向上のため家庭学習の習慣の確立	定期的演習課題、小テストなどを行い基礎学力を定着させる。	A	◆コースや講座によっては定期的に課題提出することで、家庭学習・学力の定着をはかることができた。また、授業規律を確保することにより、基礎学力の向上がみられた。 ◆学力不振生徒への補充・補講は定期的に行ったが、数学に苦手意識を持つ生徒に対する指導もより一層工夫が必要である。
		授業規律を確保する。	B	
14 理科	コースに応じた指導の工夫	4コースに対応し、かつ生徒一人一人の希望進路実現に向けた効果的な学習指導を行う。	A	◆化学基礎や化学で、身近な材料を使ってコロイドやpHなどの実験を行うことで興味関心の向上に努めた。 ◆物理をはじめ、各教室で電子黒板やプレゼンテーションソフトを使用し、ICT教育にも取り組んだ。 ◆生物ではグループ学習も行き、生物基礎では生徒が自主的に授業を行うアクティブラーニングにも挑戦できた。ただし、さらに探究を深めるためには十分な時間数が確保できておらず、少ない授業数の中で如何に理解を深めさせるか、知識を定着させるかが今後の課題といえる。
		年間学習指導計画に基づき、生徒の知識が定着し、理解が深まるような授業展開に努める。	B	
15 保健体育科	授業規律を確立する	安全面に留意し、挨拶、集団行動等、きびきびとしたけじめのある授業を行う。	B	◆挨拶の声が全体的に小さかった。 ◆授業遅刻をしない指導はしっかりでき遅刻する生徒は少なかった。 ◆授業前の化粧落とし等の指導ができた。 ◆授業の準備、後片付け等を生徒が積極的にすることができた。 ◆生徒の自主性、協力をさらに高めるための授業内容の工夫が必要である。
		時間を大切にす意識を持たせ、遅刻をなくす。	A	
16 英語科	英語を通して言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる	言語を学ぶ背景として、歴史・文化・社会にも興味を持たせて理解を深める。	B	◆身近な話題や雑学的なことを取り入れることで英文を解釈する際の興味づけとなった。 ◆語彙を増やし、文法を学習していく中で、表現力を同時に身につけるように課題を出した。難しくても挑戦する生徒もいれば、そうでない生徒もおり、さらなる工夫が必要である。
		基本的な文法と語彙を学習し、実践的コミュニケーション能力を伸ばす。	B	

分掌 教科	項目（重点目標）	具体的方策	評価	成果と課題
17 芸術科	基礎技術を充実させ自ら学ぶ意欲を育てる	授業規律を大切にする。	B	◆授業展開を工夫し、2時間の授業時間を有効に活用した。（音） ◆生徒の個々の能力を把握しながら表現の幅を広げる指導ができた。（美・書） ◆授業規律を保ちつつ心の開放を目指す時間を指した。
		授業時間を有効に活用し、完成度を高めるための姿勢を身につけさせる。	B	
18 家庭科	家庭生活の改善・充実・向上を目指す	家庭生活の中から課題を見つけ出し、学んだことが実際に生かせる授業を展開する。	B	◆各家庭での家庭料理をレポートにまとめさせたり、ニュースで取り上げられた話題を授業で取り扱うなど、実生活と結びつける授業展開がある程度できた。また、視聴覚教材も効果的に使用することができた。
		基礎的な知識や技能の定着を図る。	B	
19 情報科	情報モラル意識の育成	個人情報の使われ方を通して、自己の個人情報について学ぶ。	A	◆個人情報の取扱、Office製品の使い方については一定の水準に達したように考える。タイピングの練習を各時間毎に行ってきたが、生徒に評判が良かった。
		知的財産権（著作権・特許権など）の歴史を通して、その重要性を理解させる。	B	

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ◆学校のホームページは更新回数が多くなるとともに、内容についても躍動感のある生徒の写真が多く掲載され、かなり改善された。 ◆中学校に配付されている「綾高だより」の文字が少し小さく見にくいので、中学生にも興味を持ってもらえるよう、文字や写真を大きくされ、工夫された方がよい。 ◆大学進学については、教員から教わった授業内容をいかに受験勉強に活かすかが重要であり、受験勉強の方法を教えてあげることで改善されるのではないかと。 ◆校外での生徒たちのマナーが良くなり、交差点を通りかかった際にも会釈をしてくれた生徒がいて非常に気持ち良かった。通学時の校外でのマナー向上や交通事故防止について継続した取組をお願いしたい。 ◆大学進学後も卒業生が進路指導部を訪問でき、行政とも連携した地元企業等へ就職相談などができるシステムを構築して欲しい。
-------------------------	---

次年度に 向けた改善の 方向性	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆進路指導面においては、府実カテストや模擬試験のデータを分析し、学年会議や教科会議等で活用してもらえることができたので、より一層学校全体で学力向上に取り組める機運を高めるきっかけづくりができた。さらに、国語、数学、英語の三教科で添削指導等を取り入れたことにより、これまで以上に丁寧な指導ができるようになり、大学受験を希望する生徒の学習意欲を向上させることができた。 ◆京都フロンティア校地域創生推進校として「綾部学」の取組と高校生伝統文化事業の文化歴史推進校での取組を並行して実施することにより、地域の歴史と伝統への理解を深めるとともに地域に貢献できる生徒の育成を図ることができた。 ◆部活動においては、運動部では、硬式野球部が春季京都府高校野球大会で63年ぶりに決勝戦まで進出し、さらに第99回全国高校野球選手権京都大会でも42年ぶりにベスト4入りを果たすことができた。また、カヌー部は世界大会をはじめ全国高校総体と国民体育大会にも出場し、男子ソフトボール部も本年3月に高知県で開催予定の全国選抜大会に出場することができた。文化部においても、書道部が全国高校文化祭に出場し、放送部も本年8月に長野県で開催予定の全国高校文化祭に出場することになった。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今年度も教育活動アンケートで学力向上に向けた取組が不十分な点について指摘いただいているので、その点については、最重要課題として改善できるよう学校全体で組織的に取り組む必要がある。 ◆2学期に学校行事が集中し、落ち着いて授業に臨むことができない環境となったことから、来年度は学校行事の精選とともに、落ち着いて授業に臨むことができる環境づくりとともに授業数確保に努めていく必要がある。 ◆インフルエンザによる欠席者が例年より多く、2クラス学級閉鎖をすることになったので、生徒自身の健康管理能力の向上とともに学校としての感染拡大防止に努め、来年度から実施される学校欠席者情報収集システム導入に向けての準備も進めていく必要がある。 ◆自転車乗車時のマナー向上と交通事故防止に向け、PTA等と連携した継続的な取組が必要であり、生徒の規範意識の向上や通学時の列車乗車マナー向上等、更なるシティズンシップ教育の継続的な取組も必要である。
-----------------------	---